

社会学ゼミのすべて

2023

CONTENTS

— 目 次 —

1. 社会学ゼミとはどういうゼミなのか
2. ゼミの沿革と開講方式
3. ゼミのテキストと発表
 - (1) テキスト
 - (2) 発表例
4. 研究プロジェクト論文
 - (1) テーマの傾向
 - (2) 題目一覧
5. ゼミのレポート
6. 社会学ゼミを理解するための 50 冊

1. 社会学ゼミとはどういうゼミなのか

「社会学ゼミ」は次のような目標をもつゼミである。

文献講読を通じて社会学についての理解を深め、社会的に考察・分析する方法を学ぶ。社会化、自己、こころ、感情、コミュニケーション、行為、逸脱行動、文化のような個人レベルで起こるミクロな事象と、マクロな社会構造・社会変動とを結びつける、広い視野だけでなく、多角的で焦点深度の深いまなざしと、社会生活にも応用できる知性を身につけることを目的とする。発表はパワーポイントを使って行うので、未習熟者にはその指導を行う。また必要に応じて、社会調査の指導も行う。

「心理人間学科」という心理学の学科というパブリックイメージをもつ学科にあって、「社会学ゼミ」は異端的な内容を持つようにも思われる。しかし、人間の総合的理解に社会的視点は欠かせないという位置づけが学科内ではなされている。

2. ゼミの沿革と開講方式

2003年に心理人間学科第1期生（2000生）のゼミとして開講された17のゼミのうちのひとつである。担当教員の研究休暇（2011年度）も開講しており、2003年度から2020年度まで連続して開講されたため、18年間連続で開講された唯一のゼミである。2011年度のゼミ選択を除きゼミ選択の定員割れは一度だけで、ゼミ卒業生数も学科で最多である。

開講時限は、開講以来金曜日午後であり、2007年度からは若干の例外を除き、D42教室を使用している。ゼミは2020年度までは3年生・4年生の合同のゼミだったが、2021年度より金曜3限を3年生、4限を4年生とした。合同ゼミの場合には、前半が4年生の発表、後半を3年生の発表としていた。卒論指導は別途時間を採っておこなっていたが、しかし、表1に見るように、クォーター制の導入（2019年度は4年生が4クォーターだったが2020年度より完全3クォーター）によるゼミの3クォーター制、2021年度からの100分授業の影響で時間数が激減し、ゼミ生の発表回数が確保できなくなったため、2021年度から3・4年別開講とする変更を行ったのである。

表1 4年次におけるゼミ時間数の比較

	ゼミ開講形態	年間のゼミ回数	年間のゼミ時間数
2016生	90分×15回×2学期	30回	2700分
2017生	90分×8回×4クォーター	32回*	2880分
2018生	90分×8回×3クォーター	24回	2160分

2019 生	100 分×7 回×3 クォーター	21 回	2100 分
--------	-------------------	------	--------

* クォーター制施行に伴い、1 クォーターあたりの授業回数は半分になったが、15 回の半分は 7.5 回であることから 8 回に切り上げられ、その結果、4 クォーターでゼミを行った 2017 生ではゼミ回数・時間とも最多になった。100 分制のもとではこのような回数切り上げによる時間増加の現象はなくなった。

ゼミはテキストの講読方式を採り、D42 教室の壁をスクリーン代わりに使用し、発表担当者がパワーポイントを発表する形式をとっていたが、2020 年度は WebClass を活用したオンデマンド方式を採用した（ゼミのテキスト）。

ゼミ合宿（ゼミ旅行）は 2011 年度から行っていない。

3. ゼミのテキストと発表

(1) ゼミのテキスト

ゼミのテキストは教員が指定し、授業初回などに学生の分担箇所と順番を決める。1 回に一人が発表者となり、標準的には年間 2 回発表を行う。

2023		
	セルジュ・ポーガム編『100 語ではじめる社会学』文庫クセジュ	【予定】アーヴィング・ゴフマン『日常生活における自己呈示』ちくま学芸文庫

<p>2022</p>			
	<p>セルジュ・ポーガム編 『100語ではじめる社会学』文庫クセジュ</p>	<p>ケン・プラマー『21世紀を生きるための社会学の教科書』ちくま学芸文庫</p>	<p>ウォーラーステイン 『史的システムとしての資本主義』岩波文庫</p>
<p>2021</p>			
	<p>セルジュ・ポーガム編『100語ではじめる社会学』文庫クセジュ</p>	<p>アンソニー・ギデンズ『モダニティと自己アイデンティティ——後期近代における自己と社会』ちくま学芸文庫</p>	

<p>2020</p>	 <p>社会学史 大澤真幸</p> <p>本物の教養は 頭に染み込む</p> <p>「社会学はもちろん、その周辺の学問を理解するためには、どうしても、社会学史全体を知っておく必要があります。それなのに、なぜか、社会学史の本がほとんどないのが現状です。だから、この仕事に私は、強い社会的な使命感を持っています」 —大澤真幸</p> <p>講談社現代新書</p>	 <p>セルジュ・ポーガム編 阿部又郎 渡邊拓也 原山賢良</p> <p>Que Sais-je?</p> <p>100語ではじめる社会学</p> <p>フランスの若手研究者らが検討を重ね、選びぬいた100のキーワード!</p> <p>文庫クセジュ</p>
<p>2019</p>	 <p>吉見俊哉 平成時代</p> <p>失敗「と」シヨック」の30年史</p> <p>岩波新書で読む「平成」</p> <p>定価(本体900円+税)</p>	 <p>聖なる天蓋 神聖世界の社会学 ピーター・L・バーガー Peter L. Berger 岡田 稔 Minoru Sonoda</p> <p>THE SACRED CANOPY Elements of a Sociological Theory of Religion ちくま学芸文庫</p>
	<p>吉見俊哉『平成時代』岩波新書</p>	<p>ピーター・L・バーガー『聖なる天蓋』ちくま学芸文庫</p>

2018	 <p>後期資本主義における正統化の問題 ハーバーマス 著 山田正行・金 慧訳 岩波文庫 青N601-1</p>	 <p>加藤秀俊 著 社会学 わたしと世間 この学問って どういうものなん ですか？ 碩学が語る、 世間とつきあう方法 中公新書 2484 定価 単巻 780円 (税別)</p>	 <p>見田宗介 著 現代社会の理論 —情報化・消費化社会の現在と未来— 社会学最新の基本書 現代社会の〈光〉と〈闇〉を 一貫した理論でとらえる 岩波新書/最新刊 定価850円 (本巻531円)</p>	
	ユルゲン・ハーバーマス『後期資本主義における正統化の問題』岩波文庫	加藤秀俊『社会学 わたしと世間』中公新書, 2018年	見田宗介『現代社会はどこに向かうか』岩波新書	
2017	 <p>社会学の考え方 THINKING SOCIOLOGICALLY 2ND EDITION ジグムント・パウマン ヤティム・メイ 訳 奥井 智之 ZYGMUNT BAUMAN & TIM MAY TRANSLATED BY TOMOYUKI OKUI ちくま学芸文庫</p>	 <p>橋爪大三郎 / 大澤真幸他 社会学講義 CHIKUMA SHINSHO この1冊でOK! 社会学を始める前の必読書 豪華執筆陣による 入門書の決定版 筑摩書房 定価(税別)800円(税別) ちくま新書</p>	 <p>Invitation to Sociology ピーター・L・バーガー 小野重規 訳 中山元 訳 Peter L. Berger 社会学への招待 「当たり前」を疑う 人が社会をつくるのか 社会が人をつくるのか? 世界中で長年使われてきた大定番の入門書! ちくま学芸文庫 定価(税別)530円(税別)</p>	
	ジグムント・パウマン『社会学とは何か』ちくま学芸文庫	橋爪大三郎 / 大澤真幸他『社会学講義』ちくま新書	ピーター・L・バーガー『社会学への招待』(ちくま学芸文庫, 2017年)	
2016	 <p>岩波現代文庫 鶴見俊輔 著 戦後日本の大衆文化史 1945-1980年 岩波書店</p>	 <p>石田英敬 大人のための メディア論講義 CHIKUMA SHINSHO 東京大学 大人気講義! 私生活で学んだメディア論と情報社会から 人間の意識を取り戻せ! 筑摩書房 定価(税別)800円(税別) ちくま新書</p>	 <p>社会契約論 / ジェネヴ草稿 ルソー 中山元 訳 光文社古典文庫</p>	 <p>宇野重規 著 保守主義とは何か —フランス革命から現代日本まで— 本流を知れ 中公新書 200 定価 単巻 780円 (税別)</p>
	鶴見俊輔『戦後日本の大衆文化史 1945～1980年』岩波現	石田英敬『大人のためのメディア論講義』ちくま新書,	ジャン=ジャック・ルソー『社会契約論』光文社古典文庫	宇野重規『保守主義とは何か』中公新書

	代文庫	2016 年		
2015	 <p>岩波現代文庫 / 学術 284</p> <p>社会的読み方入門</p> <p>脱常識の社会学 第二版</p> <p>ランドル・コリンズ 井上 俊・磯部卓三 [訳]</p> <p>岩波書店</p>		 <p>マックス・ウェーバーを読む 仲正昌樹</p> <p>彼の思考を知ると いことは 私たちの社会と 歴史について 深く学ぶことである</p> <p>「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」 「職業としての政治」「官僚制」「社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」」「社会学の基礎概念」「職業としての学問」</p> <p>講談社現代新書 50周年</p> <p>講談社現代新書</p>	
	ランドル・コリンズ『脱常識の社会学』岩波現代文庫		仲正昌樹『マックス・ウェーバーを読む』講談社現代新書, 2014	
2014	 <p>ウェブ社会の思想 〈遍在する私〉をどう生きるか 鈴木謙介 Suzuki Kenji</p> <p>NHK BOOKS 1084</p> <p>日本放送出版協会</p>		 <p>川崎修 Kawasaki Shigeo</p> <p>ハンナ・アレント Hannah Arendt</p> <p>講談社学芸文庫</p>	
	鈴木謙介『ウェブ社会のゆくえ <多孔化>した現実の中で』NHK 出版		川崎修『ハンナ・アレント』講談社, 2014	

(2) 発表例

パワーポイントでの発表の例であるが、実際にはゼミ見学などで確かめてほしい。

第四章 ウェーバーの学問観

進歩と脱呪術化 (p.216~)
学問と価値 (p.225~)
神々の闘い (p.232~)

2013HP119

芸術
新しい表現方法が発見されたからといって、それまで偉大とされていた作品の価値が下がるわけではない

学問
「進歩 Fortschritt」を前提している学問上の「達成」はつねに新しい「問題提出」を意味する。それは他の仕事によって「打ち破られ」、時代遅れとなることをみづから欲するのである。(尾高邦雄訳『職業としての学問』岩波文庫、1936年、pp.10~11)

(3) ゼミ生のための教養講座

2018年度から本格的に始めた教員からのプレゼン。以下に掲載したのは『文学篇』。授業内容と特に関係がない。

芥川龍之介賞（通称・芥川賞）は年2回、これまで159回の授賞式が行われている。以下の中で芥川賞を受賞していない作家を答えよ。

- (1) 夏目漱石
- (2) 太宰治
- (3) 三島由紀夫
- (4) 石原慎太郎
- (5) 大江健三郎
- (6) 村上春樹
- (7) 吉本ばなな
- (8) 鮎喰響

4. 研究プロジェクト論文

(1) テーマの傾向

これまでのすべての卒論の題目をテキストマイニングソフト (KHCoder3) で分析した。

まず、単語の出現回数（図 4.1）については、「社会」が突出し、「現代」がそれに続くが、「インターネット」以下は多様な単語が並ぶ。研究テーマ領域の広さが示されていると考えられる。次に、単語同士の共起関係を調べると（図 4.2）、人間関係のクラスター（空色）と女性とサブカルチャーのクラスター（藤色）が大きなクラスターとして存在しているのがわかる。また、別途、コミュニケーションとサブカルチャーのクラスター（クリーム色）もあり、人間関係・コミュニケーションと、マスメディア・サブカルチャーが特に関心の集中する領域であることが推察できる。

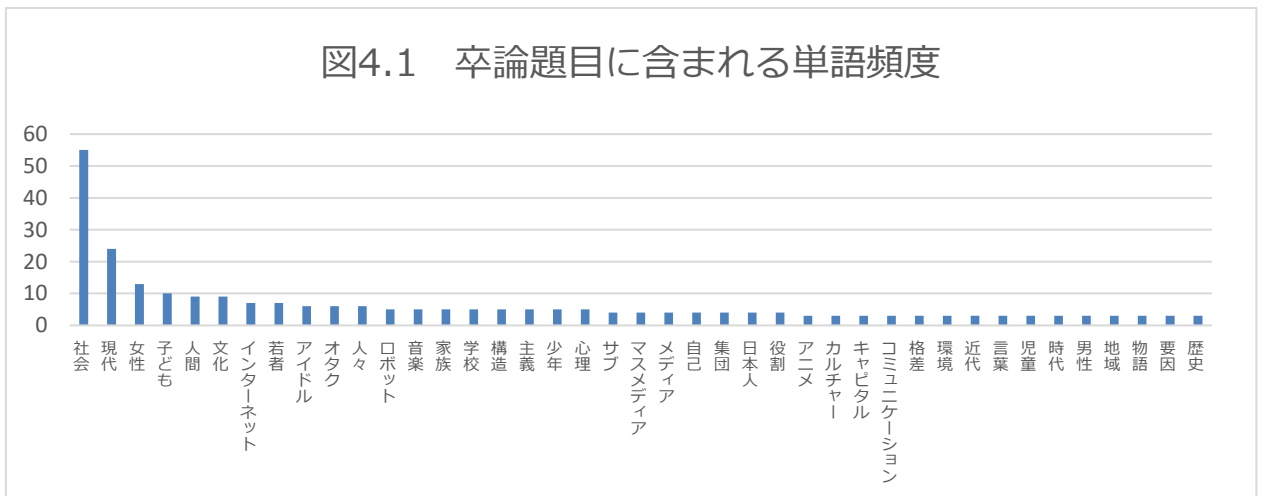
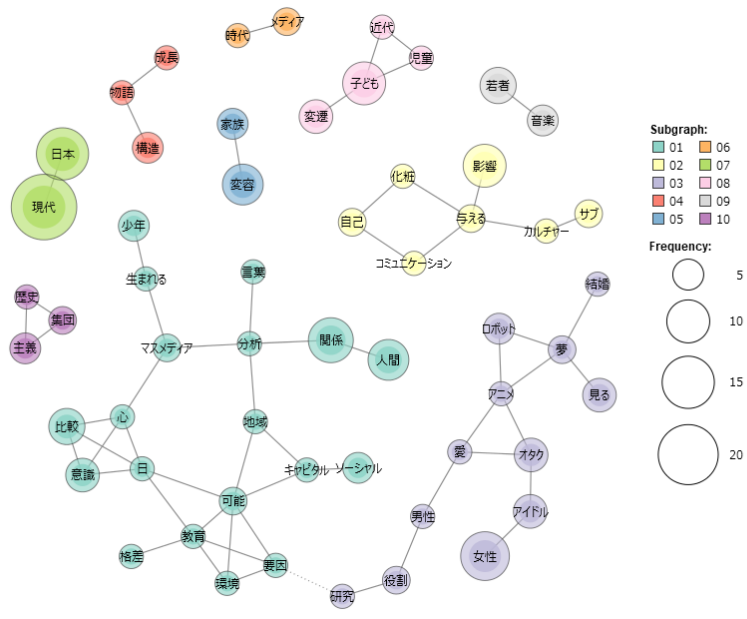


図 4.2 単語の共起ネットワーク



(2) 題目一覧（赤字は推薦論文；◎は優秀論文賞）

年度	題目
2000 生 (2003 年 度卒業)	文化的再生産とカリスマ性
	自我の社会性をめぐる考察—リースマンの社会的性格論を中心に—
	子供の道徳性に関する考察—母子関係を中心に—
	社会学における行為概念の検討
	第三の性？—メトロセクシュアルと 21 世紀の男性像—
	パンク・グランジ・サブカルチャー—音楽が社会と若者に与える影響—
	近代以降の児童文化にみる子ども観の変遷—『赤い鳥』からポケモンまで—
	日本的集団主義とは何か—その限界と解体のプロセスの解明、新たなる日本社会の探究—
	集団における役割認識について
2001 生 (2004 年 度卒業)	少年非行の現代的特徴—伝統型・遊び型・現代型の比較を通して—
	デジタル・メディア時代のコモンセンス—感覚様式は回帰するか—
	就職？進学？フリーター？—大学生のモラトリアムと労働意識—
	就労意識の変容と個人化社会—フリーターを選ぶ若者の社会的背景—
	メディアは語る事ができるか—システム論と主体の脱構築—
	摂食障害にみるジェンダーの呪縛
	逸脱の医療化論的考察—DSM における「精神障害」の変遷をめぐって—
	「父親不在」の社会学的研究—役割と権威の代替をめざして—
	<主婦>の変化と社会構造
2002 生 (2005 年 度卒業)	友だち母娘にみる親子意識の変容
	嗜癖 <small>アディクション</small> の社会学的考察—共依存への依存—
	トラウマ語りの社会学—サブカルチャーにみられるカタルシス—
	現代社会における感情労働—フライトアテンダントの事例から—
	爆笑する日本人—現代日本社会における笑い人間関係—
	「子ども観」を着る子どもたち
	現代日本における<おたく>の変容—『電車男』とインターネットの普及—
2003 生 (2006 年 度卒業)	覚悟の社会学—死を乗り越える時—
	カリスマの社会学—時代はなぜ何かを追いたがるのか—
	独身の社会学—彼女はなぜ結婚しないのか—
	やさしさの社会学—現代における人間関係の緩衝材—
	孤独の社会学—自己を蝕む病とは—
	純粹さの社会学—ホンネとタテマエのはざままで—
2004 生	マクドナルド化理論再考—スターバックスと近代化のゆくえ—

(2007 年 度卒業)	占いの社会学—現代女性が求めるもの—
	<美少女>の社会学—サブカルチャーにおける女性像の傾向—
	衣服の社会学—流行と母子関係という視点から—
	格差の社会学—現代社会に拡がる病理—
	学校の心理主義化—スクールカウンセラーの幻想と現実—
	言語と思考—価値観の違いはどこから来るのか—
	<物の怪>の社会学—物象化と境界性—
	現代青年のアンビバレントな人間関係—若者言葉語の分析を通して—
	狂気の社会学—現代における異常とは何か
	変身の社会学—非日常世界への逃走—
2005 生 (2008 年 度卒業)	記号化する「萌え」と社会病理—ポストモダンにおけるリアリティの変容—
	ロボットと人間の共存の社会学—完全なロボットとは不完全なロボットである—
	マスメディアに対抗するインターネット
	環境と共存する社会—国民性と環境対策—
	結婚できない人々—未婚化・晩婚化のはてに「婚活」が始まる—
	反骨精神音楽の社会学
	マスメディアの生み出す「うつ」—心の病を秘める文化から個性とする現代社会—
2006 生 (2009 年 度卒業)	「主夫」の出現
	現代日本の家族システムの変容
	うわさの社会学—流言が広まる社会状況と人間心理—
	サッカー文化と地域社会
	腐女子とは誰のことか—「少女」たちの共同幻想—
	女性にとって化粧とは何か—美とジェンダーの政治学—
	「作品」「作者」の重層性—クラブ・ミュージックにおける音楽概念—
	脱マクドナルド化への試み—合理化する社会の末路を見据えて—
2007 生 (2010 年 度卒業)	ネットでつながる人々—メディアの変化と現状—
	変化するコミュニケーション—ソーシャルメディアの誕生—
	習慣が生活にもたらす影響—自らが取り組む習慣（行為）の記録をもとに—
	非行と児童虐待の関連性
	ホスピタリティの変貌—マニュアル化されたディズニーランドへ—
	オタクの組織形成プロセス—アイドルオタクの派閥形成におけるインターネットの影響—
	リアル化するインターネットコミュニケーション
	メタ複製技術時代の芸術—芸術の情報化と大衆文化の形態—
	うわさの果たす社会的機能—その生成と伝達—
	J ポップの成長と衰退

	インターネットコミュニティにおける人間関係のあり方について
	社会進出した女性の価値観の変化
2008 生 (2011 年 度卒業)	現代文化から見る再生産論—はきだめのカエルはツルを生むか—
	とある物語の構造変遷—エヴァの子どもたち—
	感情の社会的評価の変遷—ヤンデレはなぜ生まれたか—
	ファッションの消滅—若者はいま何を着るのか—
	なぜ人は自分を傷つけるのか—自傷行為の心理と原因—
	家庭崩壊—家族がバラバラになるのはなぜか?—
	親子に愛はあるのか—家族と子ども観の変遷—
	日本における個人主義の歴史—集団主義から間人主義へ—
2009 生 (2012 年 度卒業)	匿名性をもつ語り手—人間 vs 初音ミク—
	オウムは合同結婚の夢を見るか—カルト宗教の比較社会学—
	児童虐待における子ども・大人関係—近代と現代の比較—
	嘘とフィクションとインターネット—ネット・オネスティの考察—
	祭礼の社会学—現代人が“祭り”に求めているもの—
	少年犯罪はこうして生まれる—ポストバブル期における家庭・学校・マスメディア—
	妻の尻にしかれる夫—親が子に与える影響—
	名前の社会学—キラキラネームはなぜ生まれたのか—
	理想から生身の存在へ—1980 年代と 2010 年代の女性アイドルの比較—
	就職難の神話と構造—なぜ大学卒業者はシューカツで挫折するのか—
	異常性愛はなぜ生まれるか—少年 A の考察—
2010 生 (2013 年 度卒業)	義務教育下の子どもの“いじめ”のある種の神秘性についての考察
	人気はどう生まれるか—立川談志を読み解く—
	音楽ファンであるということ—若者のアイデンティティとつながりの考察—
	シルバー教育の可能性を考える—私たちが高齢者になる日—
	コンサートにおけるカイロスの時間についての考察 —神格化されたジャニーズのカタルシス機能—
	「ひとりではられない」若者たち—「孤独力」の獲得法とその意義—
	ソーシャル・ゲームの光と影—新たな課金市場にひそむギャンブル性—
2011 生 (2014 年 度卒業)	子どもの社会学—現代の子どもの抱える諸問題の対処のために—
	変身に求められているものは何か?—演じることに魅せられた人々—
	匿名でのふるまいと自己呈示—SNS 上のコミュニケーションの特性について—
	コスプレの魅力—異装文化の発展について—
	SNS 疲れと社会的スキルの関係についての考察
	ラジオのカーレトロなメディアの未来—
	「お嬢様学校」は何が違うのか—他の女子校との比較を通して—

	クラシックはなぜ静かに聴かなければならないのかー西洋と日本におけるコンサートの歴史ー
	知りすぎることの弊害についてーインターネットが生み出す新型うつ病ー
	犯罪を犯した少年は本当に更生できるのか
	就職しない人々ーニートの心理とその将来ー
2012 生	同性婚をめぐる社会変化
(2015 年	スクールカーストが学級風土に及ぼす影響
度卒業)	お花見文化のふしぎー日本人はなぜ桜に惹かれるのかー
	サブテキストを読むー役がつくられる過程を見るー
	やめられない, とまらないーソーシャルゲームのガチャ課金ユーザーの心理についてー
	夢の浮世に咲く華々女性アイドルの「推し」に関する考察ー
	社会構造のミームー常識はどのようにして成長するのかー
	刺される肌、焼かれる体ー身体改造の社会学ー
	終活の流行にみる今日の間人間関係
2013 生	現代人は恐怖するー恐怖症(フォビア)、その歴史と現在ー
(2016 年	日本の男性はなぜ育児休暇をとらないのかー家族・制度・性役割ー
度卒業)	機械仕掛けの集合表象ー機巧・ロボット・鉄腕アトムー
	給食とトラウマー学校での食体験とその後の食生活への影響ー
	セーフティゾーンを探せー「有害図書」の境界線ー
	◎檀家制度と地域住民ー田原市におけるソーシャル・キャピタルの可能性ー
	ビルトゥングスロマン <small>ファブラ</small> 成長物語から教訓物語へープリキュアの変貌が現代女兒向け文化において意味するものー
	課金の美学ー日本人のゲーム内コンテンツにおける消費の傾向ー
	僕たちは友達が少ないー問題としての「ぼっち」とそのサポートプログラムー
	キャラクターはなぜ課金を促すのかーソーシャルゲームにおける欲望と消費ー
	公共交通と地域の声ー地方自治体と住民の関係性のテキストマイニング分析ー
2014 生	社会的装置としての妖怪ー共同体・規範・表象ー
(2017 年	若者とポピュラーミュージックー音楽のソーシャル化ー
度卒業)	中学生の学習意欲とその規定要因ー中1ギャップに焦点を当ててー
	ミニマリストーその考え方と生き方ー
	アニマルセラピーの可能性ー動物介在療法の現状ー
	特別支援学校卒業者の進路ー困難さとその対策ー
	隠蔽から解放へー女性と化粧の関係史ー
	もし言葉がなかったらー社会におけることばの意義ー
	親密性の変容とペットの家族化
	人格変容空間としてのロックフェス

	独語が発せられるとき—閉鎖的公共空間における相互作用—
	人々はなぜ外食から離れるのか—飲食業態の変容—
	◎「さようなら」の意味—現代日本の別れの言葉—
	現代の中学校教師はなぜストレスが多いのか
	現代に生きるゾンビー社会を反映する死体—
2015 生 (2018 年 度卒業)	オタクはなぜバッシングされる—文化と排除の政治学—
	青年期女性の居住形態と親しい友人の影響
	夢を追うことをめぐるジェネレーションギャップ
	ソーシャル・キャピタルとしての義理人情—無縁社会日本を克服する道—
	ルッキズムとマスメディア—テレビ番組における女性表現の分析—
	化粧と仮面—自己肯定に与えるメイクの影響—
	美容整形は心も変えるか—意識調査の日韓比較—
	『仮面ライダー』における女性役割—ヒロインはなぜ闘わないのか—
	ゆるやかな自己破壊—セルフネグレクトは浸蝕する—
	格差社会における専業主婦母親—子どもの学歴と職業選択に及ぼす影響—
	ひきこもりの思春期的構造—不登校とスクールフォビアの事例から—
	「過労死」の現象から見る日本人の集団意識
2016 生 (2019 年 度卒業)	青少年のための自殺論
	異性装者(クロスドレッサー)に惹かれる人々
	擬人化の法則—日本におけるマスコットキャラクターの研究—
	幼少期教育と学力格差
	アメリカ発ストリートダンスの現代日本における変容
	サイコパスの現代史 —モンスターから人間へ—
	血の規制—アニメにおける流血表現—
	職業としてのユーチューバー
	ストーカーとソーシャル・キャピタル
	顕すオタクと隠すオタク—アニメグッズへの愛のかたち—
2017 生 (2020 年 度卒業)	雑誌記事の変遷に見るジャニーズアイドル需要の質的变化—親しい存在から貢献の対象へ—
	なぜ「女性アイドルオタク」を生む女性アイドルが増えているのか
	ベジタリアンという生き方
	男性同性愛を愛好する女性たち—少年愛、JUNE、やおい、BL—
	環境要因を重視した幼児教育の可能性
	ロボットは異世界の夢を見るか—日本 SF アニメにみる社会変動—
	コミュニケーション観の変化が今後の社会に与える影響—幸福感と社会性に注目して—
	現代日本の自殺観からみる自殺の善悪についての考察

	卓球選手が長期に渡って活躍し成功するための要因の研究
	海外ドラマのリメイク作品にみる日本的感性
2018 生	恐怖の需要—ホラー映画に求められるもの—
(2021 年	ディズニープリンセス作品の魅力の構—プロップの物語論より—
度卒業)	ヴィランとは誰か—悪から共感へ—
	BL はエンタメの夢を見るか—コアジャンルのメジャー文化への転換—
	茶番としての就活
	ディズニープリンセスにおける女性像の変容—共同性・作動性の観点から—
	ジャニーズの衣装の法則性
2019 生	SNS を介した逸脱行為と抑止のためのアーキテクチャー
(2022 年	ジェンダー格差とパパ・クォーター—日本と北欧諸国の育児休業制度の比較研究—
度卒業)	世代と音楽嗜好
	現代日本におけるジェンダーレスな価値観とそのジレンマ—少年漫画のキャラクター分析—
	ポストモダン的な能力とは何か
	「中の人」からアイドルへ—声優と二次元の三次元化—
	SNS の若者の人間関係への影響—コロナ禍における大学生調査の分析—
	スポーツとしての e スポーツ
	スティグマと暴力—精神疾患との関連について—

5. ゼミのレポート

クォーターごとに、講読テキストから教員がマークシート式の問題を作成して、これをレポート課題としている。以下はその一部。

23A14-001 23A17-001	Course Title 科目名	心理人間学演習 II A・IID	Instructor 担当者名	加藤 隆雄	Class Day & Period 授業曜日時間	金曜日	4 時限
------------------------	---------------------	------------------	--------------------	-------	------------------------------	-----	------

(解答は別送の解答用紙に記入のこと。)

I. 天蓋篇 (01 の成績に算入)

問 次のN～7は、ピーター・バーガー『聖なる天蓋』(ちくま学芸文庫、2018年)の第3章前半までに関わる問題である。各問の指示に従って、①～

⑤の選択肢から解答せよ。ただし、解答は別送の解答用紙の解答欄にマークすること。(各10点)

N. 第1章の冒頭でバーガーは「社会は一種の弁証法的現象である」と述べるが、これを以下のようにまとめたとき、(a)～(f)の空欄に入るものとして適切な語句をそれぞれ①～⑤から一つ選び解答欄にマークせよ。

社会は個人よりも先に存在しているため、成長していくなかで、個人は社会過程を(a)する。この意味で、人間は社会の所産である。同時に、社会は人間の活動と意識によって不断に作り上げられるものである。人間が社会の諸要素を生み出していく(b)のプロセスは、しかし、作り出された制度や規範が、作り出した人間に外在・拘束として立ち現れる(c)という契機、すなわち(d)を通して個人に(a)を要求することになる。このように、人間が社会を作り作り出された社会が人間を作るという相互的・循環的過程が「弁証法的」と表現される。バーガーは、人間が社会を作るという視点、社会が外在的なものとして人間に立ち現れるという視点を、それぞれ(e)から得ており、(f)としてバーソンスの理論を批判している。

(a)に入る語句

- ① 外在化 (externalization)
- ② 客体化 (objectivation)
- ③ 内在化 (internalization)
- ④ 個人化 (individuation)
- ⑤ 社会化 (socialization)

(b)に入る語句

- ① 外在化
- ② 客体化
- ③ 内在化
- ④ 個人化
- ⑤ 社会化

6. 社会学ゼミを理解するための50冊

すべてを読まなくてはいけないわけではもちろんないが、どれか一冊でも関心を持つ著作があれば、社会学ゼミで研究するのに適しているということができる。なお、リストは現在49冊であり、補充と入替を検討中。

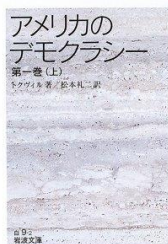
I. スピノザ『エチカ』



2. ジャン=ジャック・ルソー『社会契約論』



3. アレクシス・ド・トックヴィル『アメリカのデモクラシー』



4. カール・マルクス&フードリヒ・エンゲルス『ドイツ・イデオロギー』



5. エミール・デュルケム『社会分業論』

6. エミール・デュルケム『自殺論』



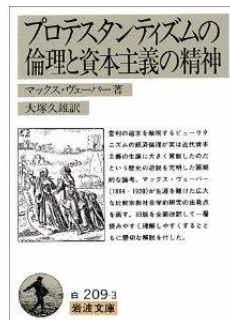
7. エミール・デュルケム『社会学的方法の基準』

8. エミール・デュルケム『宗教生活の原初形態』

9. エミール・デュルケム『教育と社会学』

10. エミール・デュルケム『フランス教育思想史』

11. マックス・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』



12. マックス・ウェーバー『支配の社会学』

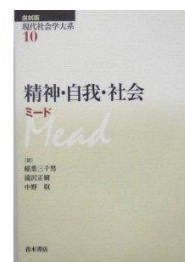
13. ゲオルグ・ジンメル『社会分化論』

14. ゲオルグ・ジンメル『社会学』

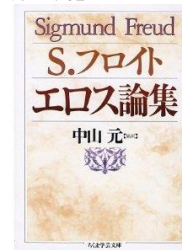
15. ゲオルグ・ジンメル『社会学の根本問題』



16. ジョージ・ハーバート・ミード『精神・自我・社会』



17. シグムント・フロイト「性欲論三篇」



18. シグムント・フロイト「快感原則の彼岸」「自我とエス」



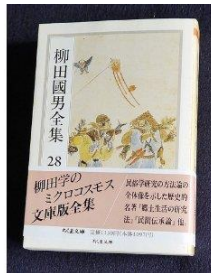
19. マルセル・モース『贈与論』



20. ルートヴィヒ・ウィトゲンシュタイン『哲学探究』

21. パーソンズ『社会的行為の構造』

22. 柳田國男『郷土生活の研究法』



23. シュッツ『社会的現実の構成』

24. バーガー&ルックマン『現実の社会的構成』

25. バーガー、バーカー、ケルナー『故郷喪失者たち』

26. アドルノ&ホルクハイマー『啓蒙の弁証法』

27. テオドール・アドルノ『否定弁証法』



28. アーヴィン・ゴッフマン『日常生活における自己呈示』



29. アーヴィン・ゴッフマン『集まりの構造』

30. アーヴィン・ゴッフマン『スティグマ』

31. Harold Garfinkel, Studies in Ethnomethodology.

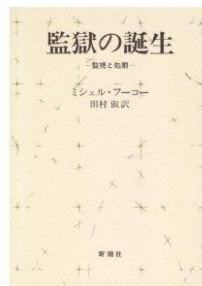
32. レイモンド・ウィリアムズ『長い革命』

33. ミシェル・フーコー『狂気の歴史』

34. ミシェル・フーコー『言葉と物』

35. ミシェル・フーコー『知の考古学』

36. ミシェル・フーコー『監視と処罰』



37. ミシェル・フーコー『性の歴史 1』

38. クロード・レヴィ=ストロース『構造人類学』

39. クロード・レヴィ=ストロース『野生の思考』

40. ロラン・バルト『モードの体系』

41. ジル・ドゥルーズ&フェリックス・ガタリ『アンチ・オイディプス』

42. ジョルジュ・バタイユ『呪われた部分』

43. ロジェ・カイヨワ『遊びと人間』

44. ジャン・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』

45. マーシャル・マクルーハン『人間の拡張』



46. ユルゲン・ハバーマス『公共性の構造転換』

47. アンソニー・ギデンズ『親密性の変容』

48. ピエール・ブルデュー『ディスタンクシオン』

49. マイケル・ハート&アントニオ・ネグリ『帝国』

50.